

## 令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立東濃特別支援学校

学校番号	116
------	-----

### 自己評価

校訓 学校教育目標 願う子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・輝くいのち、共に生きぬく</li> <li>・子どもたちの命を守り、願いや夢を実現する教育を実践するとともに、将来の社会参加や生活自立を可能にする教育活動の開発と創意に努める。</li> <li>・「丈夫な子」「明るい子」「努力する子」</li> </ul>
評価する領域・分野	小学部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おおむね教員間で連携し児童の指導にあたっている。</li> <li>・教員の専門性の向上に関する校内外の研修の拡充</li> <li>・教育方針、進路に関して、保護者の方へのより丁寧な説明および取り組み状況の報告機会が必要と思われる。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭・学校生活に関する基礎的能力や意欲を育てる。</li> <li>・健康や安全に関する指導を充実させる。</li> <li>・友達と楽しみ、協力できる体験的な活動と ICT 活用の工夫。</li> <li>・保護者と連携し、児童の課題に応じた指導および適切な評価</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討の場：主任会、教科会、チーフ会、学部会</li> <li>・連携：教務部、生徒支援部、支援センター部</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ランニング等の運動する時間の確保</li> <li>・保護者、関係機関との連携をより図り、個別の指導計画等の策定及び活用</li> <li>・児童一人一人に合わせた教材教具の工夫（ICT の活用）や学習内容の設定</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校アンケートおよび職員アンケート、児童の様子、個別の指導計画</li> <li>・学年、学部会</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の時間にランニングや室内運動を行う。</li> <li>・保護者懇談、教員間で個別の指導計画の活用</li> <li>・朝の送迎時や連絡帳にて、保護者や看護師、教員間で情報共有に努め指導に生かしている。</li> </ul>
評価の視点	評価
①児童の様子（実態把握、学習課題、個別の指導計画等の目標の達成度等）	A (B) C D
②職員の取組状況（教材等の工夫、連携、協力体制）	(A) B C D
③保護者、地域との連携の状況	A (B) C D
成果・課題	総合評価
○毎日、ランニングや室内運動に取り組み運動する習慣作りができた。 ○個別の指導計画の内容を共有し、目標の再確認等行いながら授業に取り組めた。 ○安全に気を付ける、きまりを守る指導を繰り返し行い、児童の意識が高まった。 ○体験的な学習活動及び同年代の児童と関わり合い交流活動を行うことができた。 ○ICT の活用では、児童が操作できるように工夫し、児童の理解が定着した。 ○各家庭の事例に対して学年で情報を共有し、管理職や養護教諭等と連携をとりながら対応することができた。	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の児童の学習課題を明確にし、適宜評価を行うとともに教育課程の見直し、改善を図る。</li> <li>・保護者や関係機関とより連携を図り個別の指導計画等の活用の充実を図る。</li> <li>・児童の力が発揮できる学習内容（ICT 活用、体験的な学習を含め）の工夫に努める。</li> </ul>

評価する領域・分野	中学部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケートでは、教師と生徒とのかかわりに関する項目や地域との交流に関する項目について高評価を得ている。</li> <li>・進路に関する情報や教育活動について、保護者に分かりやすく伝える方法や機会が必要である。</li> <li>・縦割りや課題別等、多様なグループでの授業が多いため、生徒に関する情報や指導目標、授業等のねらいについて職員間の共通理解が必要である。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成長する心身に関心をもち、健康で安全な生活を送るための力を育てる。</li> <li>・地域資源を活用した体験的な活動や地域との交流を通して、他者とのかかわる力を育てる。</li> <li>・集団における個に応じた指導・支援の充実を図る。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年会、学部会、主任会、教科担当者会、作業班部会、ケース会での検討を通じた取組の推進</li> <li>・教務部、進路支援部、生徒支援部、地域支援センター部との連携</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーキングやランニング、軽運動やダンス活動等、運動する機会の確保</li> <li>・健康や安全に関する指導の場面の設定と指導方法や教材の工夫</li> <li>・地域資源や人材を活用した体験的な活動や多様な人との交流活動の展開</li> <li>・支援と評価の年間計画、個別の教育支援計画・指導計画に基づいた授業実践とPDCAサイクルによる改善</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート・職員アンケートや職員からの意見</li> <li>・保護者との懇談会や連絡帳等による保護者の意見や感想</li> <li>・生徒のアンケートおよび生徒の様子</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の活動の時間におけるランニングや自立活動でのウォーキングや軽運動、ダンス活動等、継続して行った。</li> <li>・県の事業「ぎふの花で飾ろう私の学校」「緑と水の子ども会議」や県の機関（森林文化アカデミー）等を活用した体験的な活動、学校間交流（中京高校）を通して、地域の人との交流活動の工夫・計画・実践を行った。</li> <li>・学年会や学部会にて、単元の取組概要や学習内容、生徒の実態や学習状況、生徒や家庭支援に関する課題等について、情報を共有する機会を設けた。</li> </ul>
評価の視点	評価
① 生徒の健康や安全に関する学習や教材の工夫を図ることができたか。	A (B) C D
② 地域資源や人材を活用した学習活動の工夫・改善に取り組み、実践できたか。	A (B) C D
③ 職員間で生徒の実態に応じた支援、指導の検討、実践ができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>○日常的に運動する機会を設定する中で、一定時間運動を継続できるようになったり、落ち着いて生活したりする姿が増えた。</p> <p>○生徒の実態に合わせた教材・教具、できる状況づくりを工夫して授業実践する中で、生徒が自ら取り組もうとする姿や「できること」を増やすことができた。</p> <p>▲生徒の課題や学習状況、生徒・家庭支援に関する情報共有の弱さや発信内容に課題がある。</p> <p>▲学習のねらいを明確にした学習活動の立案・実践が必要である。</p> <p>▲発達段階や生活年齢に即した健康教育（性教育、食育、安全教育）の実践の蓄積が必要である。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年会、教科担当者会、作業部会を定期的に行い、生徒の状況や課題、指導支援の取組の過程、今後の方針等について共通理解と指導支援の在り方を検討する。</li> <li>・学級・学年通信や連絡帳、電話連絡、HP等の連携ツールや個別懇談や学部懇談を活用し、保護者との効果的な連携を図る。</li> <li>・校外学習や行事を見直し、学習のねらいを明確にし、地域資源や人材を活用した学習活動の充実を図る。</li> <li>・健康支援部と連携し、保健体育や生活単元学習での授業実践を行う。</li> </ul>

評価する領域・分野	高等部	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員と生徒の信頼関係及び教育活動については一定の評価が得られている。また、保護者との関係についても評価されている。</li> <li>・施設設備の充実について、例年同様に評価が低かった。</li> </ul>	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の生徒に合った支援を工夫し、授業研究や教材研究をさらに進める。</li> <li>・生徒の進路希望や実態に合わせた進路先の開拓を行う。</li> </ul>	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年間・学部間の生徒情報の共有と支援の共通理解を図る。また、生徒及び保護者の願いや想いに寄り添って、丁寧な進路支援を実現する。</li> </ul>	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事への取組を通して、計画性や協調性の伸長</li> <li>・作業学習（校内、事業所内）、現場実習・インターンシップ、在宅ワークの充実</li> <li>・保護者への進路情報の提供</li> <li>・地域の高校との交流、共同学習</li> </ul>	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習や行事、授業等に取り組む姿勢及び生徒の感想等による自己評価</li> <li>・実習先での評価</li> <li>・保護者によるアンケート評価</li> </ul>	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場実習や企業内作業学習、体験実習等、実施ができた。</li> <li>・土岐商業、土岐紅陵高校、東濃フロンティア高校との共同学習を実施した。</li> <li>・保護者及び教員を対象とした作業製品の対面販売ができた。</li> <li>・昨年同様に、道の駅「志野・織部」での作業製品販売が好評であった。</li> </ul>	
評価の視点		評価
① 個々の生徒に応じた支援の工夫		A (B) C D
② 生徒を伸ばす授業改善		A (B) C D
③ 保護者との情報共有と共通理解		A (B) C D
成果・課題		総合評価
○生徒に寄り添いながら接することを学部全体で共有し、生徒が相談し易い雰囲気醸成することで、相談をする中で自ら考えたり気付いたりする指導ができた。 ○行事や指導内容の精選を図り、高等部として大切にしたいこと、それぞれのねらいや系統性について学年単位、学部全体で検討することができた。 ▲情報モラルに関する講座や授業は定期的に行っているが、SNSの利用に関連して学校内外でトラブルになることがあった。 ▲不登校傾向や生活に課題のある生徒に対して市町や福祉、医療と連携しようとしたが、連携することが難しかったケースがあった。		A (B) C D
来年度に向けての改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラルに関する教育やSOSの出し方に関する教育の充実と教育相談体制を強化する。</li> <li>・個々の生徒の卒業後の生活を見据え、関係機関との連携を強化する。</li> <li>・職員間の情報共有や方針確認のために主任会議を定期的で開催する。</li> </ul>	

評価する領域・分野	教務部	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校の授業には体験的な活動が取り入れ、児童生徒は意欲的に取り組んでいる」の項目では、感染症を考慮しつつ可能な範囲で体験的な活動に取り組み、交流や宿泊を伴う活動を行うことができた。</li> </ul>	

今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども一人一人の実態を把握し、共通理解のもと支援できる体制づくりを推進する。</li> <li>体験的で主体的に学ぶ環境をつくり、自ら学ぼうとする機会を設定する。</li> <li>将来の社会参加を可能にするために、学校行事等で輝く姿を地域に発信する。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事等の見直しと教育課程の改善を行うための組織づくり。</li> <li>子どもたちの「自ら学ぶ」につながる授業実践ができるように研修部と連携をとって進める。</li> <li>学校行事だけでなく、教育活動全般に関してもHP等で広く情報を発信する。</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の教育支援計画・指導計画、指導と評価の年間計画の見直しと活用。</li> <li>新学習指導要領に基づいた目標設定の定着と支援の工夫。</li> <li>これからの学校行事等に向けた新しい取り組みへの改善と工夫。</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業実践をとおして、子どもたちの「自ら学ぶ」につながることができたか。</li> <li>子どもたちが体験的な学習を通して主体的に取り組むことができたか。</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の教育支援計画の書式や教育課程の見直しと改善。</li> <li>感染症に考慮し可能な範囲で体験的な学習に取り組めるような工夫。</li> <li>学校行事の新しい取り組み方の実践と来年度に向けた見直し。</li> </ul>
評価の視点	評価
①共通理解ができる体制をつくり、子どもたちの支援につながることができたか。	Ⓐ B C D
②子どもたちの「自ら学ぶ」につながることができたか。	Ⓐ B C D
③学校行事等で子どもたちの輝く姿を地域に発信することができたか。	A Ⓑ C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもたちの支援につなげるよう、教育課程の見直しと校内体制の改善を推進することができた</li> <li>○体験的活動ができるよう感染症に考慮しながら、活動内容を見直し工夫して取り組んだ。</li> <li>▲教育課程の見直しとともに週時程と授業内容の改善が必要なため、検証と見直しを大切にする。</li> </ul>	Ⓐ B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用し教育活動の啓発活動を積極的に取り組むと共に、開かれた学校の機会を多く設定する。</li> <li>校務支援システムへの移行を行いながら、検証と活用方法を工夫する。</li> </ul>

評価する領域・分野	情報教育推進部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校の教育方針や指導の内容を保護者（地域）へわかりやすく伝えている」という項目の6.5%が「あてはまらない」、6.5%が「分からない」という評価であった。ホームページを活用して、より多くの方に教育方針や授業等の様子を発信していく必要がある。</li> <li>「学校の授業は、児童生徒一人一人に合った教材・教具が準備されている」という項目の7%が「あてはまらない」、10.8%が「分からない」という評価であった。児童生徒に適した教材が提示できるように、研修やタブレット端末に関するアプリの情報提供に努める必要がある。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>&lt;子どもたちの心と身体を大切にする組織づくり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報モラルに関する考え方や態度を育むための研修を行い、児童生徒が安全にICTを活用するために必要な指導力の向上を図る。</li> <li>児童生徒の個人情報の適正な管理に努める。</li> </ul>

	<p>&lt;子どもが輝く授業づくり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT 機器を活用した授業実践の発信や実際に使用したアプリの教育的効果を検証し、利用の可能性を探る。</li> <li>効果的な ICT 機器の整備と ICT 機器の授業での活用を支援できるような体制をとる。</li> </ul> <p>&lt;地域で明るく生活し、地域社会に貢献できる力の育成&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間計画に基づいたホームページを活用した情報発信に努め、学校や児童生徒の様子を保護者や地域の方に伝える。</li> <li>オンラインを活用した交流活動を支援する。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事担当職員のホームページ文書の作成</li> <li>グループウェアによる研修等の情報の共有</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間計画に基づいたホームページの掲載</li> <li>外部講師による情報モラル研修、職員による情報機器研修の実施</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ掲載数</li> <li>職員研修後のアンケート結果</li> <li>学校評価アンケートの結果</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学部および全校行事のホームページ掲載</li> <li>外部講師による情報モラル研修会の実施</li> <li>校内職員による研修会（Microsoft Teams、Forms、Webex）の実施</li> <li>タブレット端末に関するアプリ情報の提供</li> </ul>
評価の視点	評価
① 保護者や地域の方が、ホームページからの情報を得て、学校の教育方針や指導内容、授業の様子を知ることができたか。	A (B) C D
② 職員が、情報モラルや機器への知識や理解を深め、授業等で活用することができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>○掲載文の様式を簡易化したことと年間の掲載計画を作成したことで、各学部で定期的な情報発信をホームページで行うことができた。</p> <p>○研修後、情報機器を活用して各職員が授業等で実践する姿があった。</p> <p>▲授業等の様子をホームページで定期的に情報発信を行うことができたが、学校評価アンケートの「学校の教育方針や指導の内容を保護者（地域）へわかりやすく伝えている」という項目の「あてはまらない」は5%と若干減少したものの、「わからない」は9.9%と少し増加する結果となった。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内でのホームページの更新に関しては今年度同様に行い、各家庭や関係機関、地域の学校への周知に関して積極的に進めていく。</li> <li>情報機器の研修をより授業に関連した内容で実施することと他校や他県での ICT 機器使用例の情報共有を行う。</li> </ul>

評価する領域・分野	生徒支援部
現状及びアンケートの結果分析等	「学校では、児童生徒が生き生きとして楽しそうである」という項目で「あてはまる」との回答が93.8%であった。児童生徒、保護者にとって学校が、安心安全で信頼された環境であると感じとることができる。

<p>今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>&lt;子どもたちの心と身体を大切に作る組織づくり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の生命を尊重し倫理観や規範意識を体得できるように、職員間や関係諸機関の共通理解のもと共通行動で生徒支援にあたる。</li> </ul> <p>&lt;子どもが輝く授業づくり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団の中で活動する良さを感じ、望ましい人間関係を築けるような態度を育成する。</li> <li>・自分の良さに気付いたり、自己決定の場を設定し自らの行動に責任をもったりする態度を育成する。</li> </ul> <p>&lt;地域で明るく生活し、地域社会に貢献できる力の育成&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の一員として必要な資質や能力を育む場として、行事や委員会、部活動を推進する。</li> </ul>
<p>重点目標を達成するための校内組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分掌会、学部会、職員会等で取組の周知、情報共有。</li> <li>・教育相談体制を活用し、必要に応じてケース会議や生徒支援会議を開催。</li> <li>・他の分掌との連携。</li> </ul>
<p>目標の達成に必要な具体的な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門性の向上に努めるために、全職員を対象に職員研修。</li> <li>・学校生活アンケートを活用し教育相談週間を実施。</li> <li>・児童生徒向けの、交通安全教室や情報モラル教室等、命を守る教育の実施の実施。また、かかわりや活躍の場を広げるため、今年度から学部合同の委員会を実施。</li> </ul>
<p>達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活アンケートや学校アンケートの回答。</li> <li>・取組や研修後の職員に向けた振り返りアンケート。</li> <li>・児童生徒の取組や活動の参加の様子や取組状況。</li> </ul>
<p>取組状況・実践内容等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活アンケートに合わせて個別に懇談を年3回実施した。不登校児童生徒については学校生活アンケートの質問項目では回答が難しいため、心のアンケートを活用した。</li> <li>・問題行動やいじめ、不登校児童生徒の対応等、組織的な対応を心掛け、管理職を交えた会議を適宜設定した。</li> <li>・児童生徒会を中心にあいさつ運動や交通安全の啓発等の活動を1年通して行った。学部合同の委員会の実施に伴い各分掌にも協力を依頼した。</li> <li>・職員から出た取組後や研修後のアンケートから、よりよい活動や取組となるように分掌や学部で検討や打ち合わせを行った。</li> </ul>
<p>評価の視点</p>	<p>評価</p>
<p>① 職員間で、児童生徒の情報共有やさまざまな取組の周知はできたか。</p>	<p>A (B) C D</p>
<p>② 児童生徒や保護者の話に耳を傾け、課題や問題解決に向け組織的な対応はできたか。</p>	<p>A (B) C D (A) B C D</p>
<p>③ 児童生徒に必要な資質や能力の育成に繋がる活動や取組の設定はできたか。</p>	<p></p>
<p>成果・課題</p>	<p>総合評価</p>
<p>○学校生活アンケートや教育相談週間の取組で、児童生徒の生活や様子について知ることができた。また、早期対応や家庭との連携に繋げることができた。不登校児童生徒については各学部で個別に対応し、学校と繋がりを大切にされた対応を行った。</p> <p>○児童生徒会を中心に児童生徒が主体となった取組をいくつか実践できた。仲間の良さを感じたり、望ましい人間関係の形成に繋がったりする活動となった。</p> <p>▲特別活動の様子やいじめ防止に向けた取組、命を守る教育（交通安全教室や情報モラル教室等）の取組について、児童生徒の発達段階や実態に合った内容と活動に精選をしていく必要がある。また、保護者に生徒支援部の取組や活動を知ってもらう機会が少なかった。</p>	<p>A (B) C D</p>

来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回の生活アンケートや教育相談週間の実施を継続していく。より有効な取組にしていけるように職員にも周知し、活用の仕方も提案していく。また不登校児童生徒の対応については、各学部を中心に組織的に支援していけるようにする。</li> <li>・活動や取組が児童生徒の発達段階や実態に合った内容にしていけるよう、分掌内だけでなく学部でも事前に検討し内容や当日の運営についても綿密に打ち合わせていく。</li> <li>・特別活動やいじめ防止の取組、命を守る教育等、ホームページ等を使って取組や活動の様子を保護者にも知ってもらう。</li> </ul>
---------------	---

評価する領域・分野	健康支援部	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「児童生徒の安全に気を配り、緊急時の対応がしっかりしている」は、教員の安全に対する環境整備や緊急時の対応について養護教諭や管理職と連携して対応し、保護者連絡を行うことが安心感につながっているとおおむね評価されていると考えられる。</li> </ul>	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康教育の内容については、児童生徒の実態や目的に応じて日常生活の指導、生活単元学習、保健体育等で計画的に実施できるように推進する。</li> <li>・健康の保持増進、運動に親しむ資質や能力の育成を図るために、楽しさと達成感を味わうことができるような身体活動やスポーツ活動、レクリエーション活動を推進する。</li> <li>・様々な場面で想定される緊急時の対応に備えて、救急法やより実際に即した初期対応の訓練、職員研修等を実施し職員の理解を深める。</li> </ul>	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康教育は年間指導計画に組み込み、計画的に行う。</li> <li>・感染症予防週間や学校給食週間を設けて、手指衛生や感染症予防の意識を養ったり、食育活動を推進したりする。</li> <li>・緊急時対応訓練では、時間や場所等の様々な場面を想定し、学級、学年、学部、全校での各体制を確認して対応できるようにする。</li> </ul>	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康教育は年間指導計画に取り入れ、実態や発達段階に応じて実施。</li> <li>・感染症予防週間、学校給食週間は、昼の放送や掲示物等での啓発。</li> <li>・緊急時対応訓練と土岐市北消防署における普通救命法講習。</li> </ul>	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康教育では、児童生徒が授業の課題に取り組む姿や授業後の行動の様子。</li> <li>・感染症予防や食育では、手洗いや給食での児童生徒の様子。</li> <li>・様々な場面における緊急時対応について、意識や知識を深めることができたか。</li> </ul>	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育器具・体育教材の整理、体育倉庫・グラウンドの整備。</li> <li>・緊急時役割カード使用、様々な場所や状況を想定した初期対応訓練。</li> </ul>	
評価の視点	評価	
① 健康教育では、児童生徒の実態や発達段階に応じた授業や日常的な支援、感染症予防週間・給食週間等の内容を分かりやすく提示し、計画的に実施することができたか。	A (B) C D	
② 緊急時対応訓練、普通救命法講習、人形を使用した心肺蘇生法等を通して、安心安全な学校生活について危機管理に対する意識や資質を深めることができたか。	A (B) C D	
成果・課題	総合評価	
○健康教育は、児童生徒の実態や発達段階に応じた授業や日常的な支援、感染症予防週間・給食週間等の内容を分かりやすく提示し、計画的に実施することができたか。	A (B) C D	

▲緊急時対応やアクシデント報告では、周知事項が徹底されていないことがあったため、定期的に確認していく必要がある。	
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康教育では、必要なときにすぐ活用できるようにデータを管理する。</li> <li>緊急時対応訓練では、初期対応や校外学習にスムーズに対応できるように職員の危機管理に対する意識をより深めていく。</li> </ul>

評価する領域・分野	防災安全部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校は、安全に気を配り、緊急時の対応がしっかりしている」という項目に91%が「あてはまる」という評価をいただいた。当校の安全教育や非常変災時等の対応に関する活動が概ね評価されていると考えられる。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な時と場合を想定した訓練を計画・実施して対応マニュアルを検証し子供たちの命を守り切る意識を高める。</li> <li>防災士等の専門家と連携を図り、体験的な活動を取り入れた防災・防犯教育を実施する。</li> <li>定期的に職員研修の実施や防災通信の発行を行い、防災教育に関わる啓発活動を推進する。</li> <li>毎月の安全点検等を実施し、安心・安全な環境整備を行う。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>命を守る訓練等の各種訓練を実施し、校内安全体制の確認、見直し。</li> <li>消防署等と連携した検査の実施や危機管理マニュアルの見直し。</li> <li>防災・減災に関する情報発信や啓発活動。</li> <li>校内環境整備に向けた、事務部との連携。</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>火災や地震、さまざまな時間帯等を想定した訓練の実施。</li> <li>専門家を招いた生徒向けの防災授業や職員向け研修会の企画・実施。</li> <li>年3回の防災通信の発行。</li> <li>毎月の安全点検の呼びかけ・実施。問題箇所の確認。</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種防災訓練や研修の振り返りと、マニュアルの見直し、改善の共通理解。</li> <li>消防署による検査と、それによる指摘への改善を実施。</li> <li>問題箇所等の改善状況。</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>命を守る訓練 命を守る訓練 引き渡し訓練 防災通信作成</li> <li>学校安全研修 安全ハンドブック作成 備蓄管理・補充 防災教育研修</li> <li>防災設備研修 高等部生徒向け防災出前授業 校内安全点検 校内環境整備</li> </ul>
評価の視点	評価
① 訓練や研修を通して、緊急時の対応・備えを確認することができたか。	A ① C D
② 地域と連携した防災活動を展開することができたか。	A ① C D
③ 毎月の安全点検の呼びかけ・実施をし、環境整備を進めていくことができたか。	A ① C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度も消防署職員の協力の元、地震体験車体験を実施することができた。</li> <li>○保護者と引き渡し訓練で非常変災時の対応等を確認することができた。</li> <li>○昨年度の研修後アンケートの内容を踏まえた職員研修を実施し、防災意識の啓発を行うことができた。</li> <li>○毎月の安全点検等が職員の中で定着して、安全管理の意識づけにつながった。</li> <li>▲引き続きさまざまな状況等を想定した訓練を計画・実施し、いざというときのために備えていく。</li> </ul>	A ① C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年増えてきている地震や大雨等の非常変災時に備え、保護者と引き渡し訓練や個人備蓄等を通して、これまで以上に連携を進めていく。</li> <li>防災安全上の安全対策等の環境整備を、引き続き事務部とも連携しながら進めていく。</li> </ul>



評価する領域・分野	進路支援部
現状及びアンケートの結果分析等	学校評価アンケート結果の進路の情報提供に係る項目で、肯定的な評価結果は得られたが、9割には届かなかった。また、現場実習前に自身の課題や特性を意識しながら進路希望先を決めることが十分にできなかった生徒は、進路変更、再検討等のケースになることが複数あった。これらのことから、情報発信の内容や方法を工夫したり、生徒が自己理解を深めるための取組を行なったりする必要があると考える。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>&lt;子どもたちの心と身体を大切に作る組織づくり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関との情報交換や進路支援に関する研修等を通して、職員のスキルアップを図る。</li> <li>・進路に関する情報を提供し、保護者の進路支援への理解・啓発に努める。</li> </ul> <p>&lt;子どもが輝く授業づくり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己理解を深めたり、仲間のよさに気付いたりすることを通して、自分らしい生き方を実現しようとする態度を育成する。</li> <li>・学ぶことと自分の将来とのつながりイメージしながら、社会的・職業的自立に向けて必要な資質や能力を育む。</li> </ul> <p>&lt;地域で明るく生活し、地域社会に貢献できる力の育成&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業学習や実習等を通して、自己の能力や適性を正しく理解する力や社会自立に必要な力を育てる。</li> <li>・関係諸機関の協力のもと、職場定着支援及び生活支援の充実を図り、卒業後も地域で安定した生活が送れるようにする。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分掌会、学部会、学年会での情報共有</li> <li>・各担任との積極的な情報交換</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路説明会、進路通信の発行、関係機関との交流等の計画的な実施</li> <li>・教職員への進路にかかわる研修の実施</li> <li>・個別懇談等で進路に関する話題提供を積極的にするように周知</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の懇話会や説明会への参加状況、学校評価アンケートの結果</li> <li>・職員の進路情報への関心や理解</li> <li>・児童生徒のキャリアへのイメージや進路学習状況</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路通信（年6回）、進路にかかわるQ&amp;Aの発行</li> <li>・保護者向け進路懇話会（小学部、中学部）、進路説明会（高等部）の実施</li> <li>・職員・保護者向け進路研修会（障がい年金）の実施</li> <li>・職場等見学、職業講話等、関係機関の協力を得ての授業の実施</li> </ul>
評価の視点	評価
①保護者が、必要な情報を得て、進路支援への意識を高めることができたか。	A (B) C D
②職員が、進路への知識や理解を深め、教育活動に生かすことができたか。	A (B) C D
③児童生徒がキャリアや卒業後の進路に関心を持ち、努力する姿が見られたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>○進路ガイダンスの参加者や、高等部以外の児童生徒・保護者からの事業所見学の依頼が増えるなど、進路への関心が高まったように感じられる。</li> <li>○担任から進路支援部に、進路支援にかかわる相談が増えた。進路支援の進め方を検討したうえで、教育活動を進めようとする意識の向上が見られた。</li> <li>○進路希望（企業、障がい福祉サービスの利用）を自分から保護者や職員に伝えたり、家庭で相談したりする生徒が増えた。また、進路希望状況等の情報を関係機関と早めに共有しておくことで、日程に余裕をもって手続きをすすめられたり、サービスの追加等の本人・保護者からの急な要望に柔軟に対応したりすることがで</li> </ul>	A (B) C D

<p>きた。</p> <p>▲令和5年度の学校評価アンケート結果の進路の情報提供に係る項目で、昨年度よりは肯定的な評価結果は得ることができなかった。</p> <p>▲キャリアパスポートの書式や実施方法の見直しを進める。</p> <p>▲進学支援（特に高等部卒業後）にかかわる準備を進める。</p>	
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路にかかわる保護者の関心は高まっているが、学部によって差がある。小学部や中学部段階のキャリア教育が高等部や卒業後の姿につながることを職員間で共通理解し、児童生徒や保護者に伝えていく。また、進路研修等を通して職員一人一人のスキルアップに努めていく。</li> <li>・キャリアパスポートが作成しやすく且つ使いやすい様式や方法を探りながら実施を続け、児童生徒、職員への定着を促していく。</li> <li>・近隣の高校や特別支援学校から情報を収集し、模試のあり方や、進学説明会等の準備をすすめ、進路支援年間指導計画に位置付けていく。</li> </ul>

評価する領域・分野	渉外部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校は、地域に開かれた学校として学校開放を進めている」という項目に対して「当てはまる」という意見が60.9%であり、昨年度より+9.5%上がっている。要因として、感染症対策の緩和も認められてきていることによるPTA活動や学校行事の回数や人数制限及び参集形態の制限などが緩和されたことが大きく影響されていると想定される。また、本校生徒の取り組みが新聞掲載された数も増加したことや「イオン黄色いレシートキャンペーン」に登録し「地域交流をテーマ」に地域へ発信した影響もあったと考えられる。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA会員が活動を通して、保護者同士の親睦や相互理解を深められるために支援する。</li> <li>・作品作りの意欲向上を引き出すために、作品展の出品を意識した年間指導計画を作成していただけるように年度当初に啓発する。</li> <li>・地域にある資源や人とのつながりにより意識を向け、様々な活動を通して、本校の取り組みや地域貢献への理解を広める。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区、委員会ごとに担当の教員を配置し、PTA役員とこまめに連絡を取り合ったり、教員間で情報共有し合ったりして、活動支援を行っていく。</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAが企画する研修会や施設見学の計画と学校組織の分掌（進路、健康支援等）と連携が図れるように繋ぐ。</li> <li>・市役所との意見交流会、地域作品展への出品、PTA会報の配付を行う。</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA行事での参加者の参加率や満足度</li> <li>・地域との連携（意見交流会、情報発信等）</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員用の年金セミナーに、保護者が参加できるように案内した。</li> <li>・市役所との意見交流会では、要望を伝えたり情報提供を依頼したりした。</li> <li>・「イオン黄色いレシートキャンペーン」では、高等部の地域貢献をテーマとした啓発ポスターを作成し、店頭掲示及び店頭で呼びかけを実施した。</li> </ul>
評価の視点	評価
① 地域とつながりを感じられる活動ができたか。	A B C D
② PTA活動を通して参加者が満足できたか。	A B C D
③ 作品を出展することや活動啓発を通じ、地域社会の理解を深められたか。	A B C D
成果・課題	総合評価
○保護者同士の親睦や相互理解を深めることを目的に、PTA役員が主体となって研修や施設見学を計画したり参加したりする姿が多くみられるようになった。	A B C D

▲PTA離れが騒がれる社会風潮のなか、「今の社会にあったPTA活動の在り方」をPTAとともに具体化にしていく。クラス役員廃止したあとの、継続ができる活動とボランティア収集の難しい活動の必要度を比較し、残す活動の精選が必要となってくる。	
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA研修会の回数を増やし、参加しやすい活動内容になるように勧める。</li> <li>・作品展示を意識した年間指導計画を作成してもらえよう教務と連携していく。</li> <li>・各種報道機関に本校の取り組みを取り上げてもらえるように情報提供を進める。</li> </ul>

評価する領域・分野	地域支援センター（特別支援学校のセンター的機能、交流活動）	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「交流活動を活発に進めている」では、“あてはまる”が14ポイント上昇。訪問交流などが5月から解禁されたことが要因だと考えられる。</li> <li>・「地域のセンター的機能の役割を果たしている」では、“あてはまる”と回答した方が、約75%と前年度と同様だった。しかし、同項目で“わからない”が1.7ポイント上がり20%を上回った。センター的機能が保護者にとっては見えにくい活動になっていることが分かる。</li> </ul>	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>&lt;子供たちの心と体を大切にする組織づくり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切なアセスメントに基づいた教育的支援を助言したり、支援者同士の情報共有を図ったりする。</li> </ul> <p>&lt;子どもが輝く授業づくり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内外の相談支援を積極的に行い、授業改善を図るための指導力の向上を図る。</li> </ul> <p>&lt;地域で明るく生活し、地域社会に貢献できる力の育成&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の関係機関とのネットワークを活かし、支援の分担を明らかにした適切な支援を行う。</li> <li>・地域におけるセンター的機能を活かし、交流学习及び共同学習の充実を図る。</li> </ul>	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域支援センター</li> <li>・特別支援教育コーディネーター</li> <li>・学部コーディネーター</li> </ul>	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の関係機関等からの依頼に応じた継続的な相談・支援業務</li> <li>・学部コーディネーターと各部主事が連携しケース会議等を実施</li> <li>・地域連携会議、福祉関係機関向けの授業見学、個別ケース会議等の実施</li> <li>・交流相手と連携を図った計画性のある交流学习、共同学習の実施</li> </ul>	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談の依頼件数、相談支援後の報告書等による検証</li> <li>・研修会の外部参加者数及び事後アンケート結果</li> <li>・地域連携会議、福祉関係機関向けの授業見学等の事後アンケート結果</li> <li>・交流学习、共同学習での児童生徒の様子、職員間での意見交換</li> </ul>	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育機関等からの依頼に応じて訪問相談や学校見学の受け入れ等の業務を遂行した。</li> <li>・職員研修や保護者も交えた勉強会等で講師をした。</li> <li>・地域連携会議、福祉関係機関向けの授業見学、個別ケース会議等を実施し、外部機関とのネットワーク強化を図った。</li> <li>・交流及び共同学習では、直接触れ合う交流が実施できた。</li> </ul>	
評価の視点		評価
① 相談の依頼に応じた助言により、地域の特別支援の質の向上が高められたか		A (B) C D
② 関係機関との連携は支援者の役割分担を含め、適切な支援につながったか。		(A) B C D
③ 交流学习や共同学習は児童生徒が「充実感」を味わえる内容になっていたか。		A (B) C D

成果・課題	総合評価
<p>○訪問相談、学校見学、職員研修の依頼が多くあり、特別支援学校のセンター的機能へのニーズに応えることができた。</p> <p>○継続的に訪問相談に入ったケースでは、より具体的な支援や合理的配慮、ケース会議の持ち方等について助言し、地域の専門性を高めることができた。</p> <p>○地域連携支援会議や福祉関係機関向けの公開授業を開催することができ、地域の教育・福祉・医療等関係機関や保護者との連携を図ることができた。</p> <p>○交流相手校と密な連絡をとり、充実した訪問交流を実施することができた。</p> <p>▲センター的な役割としての適切な教育的支援を提供できるよう、さらに研鑽を積むと共にさらにニーズに応じた情報提供ができるようにする。</p> <p>▲学部コーディネーターの業務の範囲が明確ではなく、業務の偏りや都度確認が必要だった。</p>	A (B) C D
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内外の支援体制の構築と業務の整理を積極的に進め、職員の指導力の向上を目指す。</li> <li>・地域の関係機関との連携を図り、地域と一緒に子どもの成長を目指す。</li> <li>・双方の子どもたちが成長できる交流学习を目指し、綿密な計画に基づいた実践をする。</li> </ul>

評価する領域・分野	舎務部
<p>現状及びアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「児童生徒が社会生活の基礎的・基本的な力を身に付けられるような指導を工夫している」という項目に対し「あてはまる」という意見が92.5%と高く、地域資源を活用する行事や卒業後を見据えた指導方針を評価している。</li> </ul>
<p>今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舎生会役員が中心となり、主体性をもって舎生会の運営にかかわる支援。</li> <li>・卒業後、家庭や地域で生活していくことを見据え、社会に出たときに必要な力の育成。</li> </ul>
<p>重点目標を達成するための校内組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導員部会、チーフ会、分掌会（総務部・庶務部・保健安全部・研修部・舎生支援部）等で寄宿舎運営についての検討。</li> <li>・保護者や担任、関係する校務分掌との連携。</li> </ul>
<p>目標の達成に必要な具体的取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な舎生会（あゆみ）を実施し、生徒主体の寄宿舎運営や行事への取り組み方等の検討。</li> <li>・舎生一人一人の目標や抱えている課題に対して、保護者懇談や学舎懇談等を通し目標や課題を明確化し、それぞれの立場で連携を取りながら支援方法を検討する。</li> <li>・寄宿舎個別の支援計画の作成・検討。</li> </ul>
<p>達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舎生会（あゆみ）や行事に取り組む生徒の様子。</li> <li>・卒業後の社会参加に向けた週中帰省や自力通学に取り組む舎生の姿。</li> </ul>
<p>取組状況・実践内容等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒主体で取り組む舎生会の実施。</li> <li>・実態に応じた週中帰省の実施。</li> <li>・学舎懇談や、寄宿舎懇談の実施。</li> </ul>
評価の視点	評価
<p>① 舎生会での取り組みは、生徒が主体性を持つために有効な手段であったか。</p>	<p>(A) B C D</p>
<p>② 社会に出たときに必要な力は培われているか。</p>	<p>A (B) C D</p>
<p>③ 保護者や担任と連携をとり、課題や目標を明確にし、実態にあった指導ができているか。</p>	<p>A (B) C D</p>

成果・課題	総合評価
<p>○舎生同士で話し合いができる環境設定をし、意見を出し合いながら行事やルール等を決めることができた。</p> <p>○退舎後や卒業後の生活を見据えながら、寄宿舍での目標を設定し取り組むことができた。</p> <p>▲舎生について、学舎懇談や寄宿舍懇談等を定期的に行ってきた。出席する当事者同士の連携は深めることができたが、舎生にかかわるその他の教員や指導員まで共通理解を広げるには至らなかった。</p>	A (B) C D
来年度に向けての 改善方策案	・保護者や学部との懇談や日頃の連携について、意図や目的等も含めながら、より丁寧に行っていく。また、担当間の連携に留まらず、家庭や学部、寄宿舍のそれぞれの場で共通理解を広げられるようにしていく。

### 学校関係者評価 (令和6年1月25日実施)

意見・要望・評価等 (学校アンケート、及び第3回学校評議員会等より)
<p>1 学校アンケート結果について</p> <p>78.9%の回答率で、高評価項目(よくあてはまる、ややあてはまるが90%以上のもの)が15項目であった。新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、校外学習を含む体験的な活動や交流学习、授業参観を実施できたことで、学校の教育方針の理解や指導内容への共感を得ることができたと考えられる。</p> <p>一方で、授業内容や教材教具が児童生徒一人一人に適しているかの項目で、80%前後の評価であった。授業参観は実施できたが、教員が児童生徒の実態に応じて工夫しながら教材教具を作っていることを保護者が目にする機会が少ないことが要因と考えられる。個人懇談時に教材教具を提示しながら授業の様子を伝えたり、通信で授業の様子や教材教具を紹介したりするなどの工夫が必要である。</p> <p>課題としては、34.2%の保護者より、施設設備の不十分さを指摘された。</p> <p>2 学校評議員より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校外での学習ができるようになってよかった。親以外の人と出かけることの大切さを感じる。友達や教師と一緒にだともできることも多い。</li> <li>・保護者への電話連絡は困ったときだけでなく、頑張っていることも伝えるようにしてほしい。</li> <li>・手厚い指導と授業の準備等の充実は、働き方改革と相反するところがある。働き方改革については、保護者の理解を得ることが必要である。</li> <li>・学校運営協議会の委員について、今年度の委員は卒業生の保護者も多く関係者であるため、なかなか厳しい意見を言うことができない。委員の選出については、外部の方を積極的に選出し、厳しい意見をいただくことでよりよい学校になると思う。</li> <li>・道の駅での製品販売は良好である。製品を量産していただいて販売スペースを広げることも可能である。実際に高等部の生徒に道の駅に来ていただいて販売してほしい。</li> <li>・勤務先に卒業生が就職して一緒に働いている。一生懸命に働いて力を身に付けている。卒業後のフォローをしていただけるとよい。</li> <li>・特別支援学校ではどんな学習をしているのかを知らなかったが、委員として参加して多くのことを知るよい機会となった。</li> </ul>